川でむすぶ

【行事案内】

○「川ばた会議」～　講演、ワークショップ

【学習支援報告】

○夏井川環境学習会（上下流両小学校交流会）
○小川町高萩地区の水辺環境学習支援
○三和小学校児童の水辺環境学習支援

【事業報告・関連事業団体への参加報告】

○右支夏井川２６時間連続水質調査
○第２回夏井川かわくだり開催報告
○第 15 回全国河川愛護団体交流会・新潟大会
○小玉ダム湖周辺清掃活動参加報告
○深いみどりの防潮堤を念じて（植樹祭）
○新川ひょうたん島の清掃
○秋の夏井川沿いウォーキング

【寄稿文】

○夏井川河口閉塞の要因はいずこに

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

＜新年のご挨拶＞

自然に触れ合える空間づくりを

代表世話人　橋本　孝一

明けましておめでとうございます。昨年は、国内外共に、大きな変動をもたらす社会の動きがありました。また、昨年 9 月の関東・東北豪雨（日光市では、24 時間雨量 551㎜ を記録、小名浜の年間降雨量は、1,400㎜ 程度）では、近くでは、鬼怒川の堤防決壊による氾濫等、大きな被害がもたらされました。5 年前の東日本大震災時の津波被害の教訓も含め、自然の脅威には、「克服」ではなく、一定の距離をおきながら「柔軟な対応策」こそが今後の自然の脅威への対応には必要との感を深くしました。

◆多様な面を持つ「川」という自然は、私たちの日常生活とは切っても切れない存在であり、身近に存在する自然でもあります。同時に、様々な生きものの生息空間でもあります。私たち人類は、他の生物との共存の在り方を知るためには、「川」に直接触れ、五感を通して「川」を感じ取る機会をより多く作っていくことが求められています。当会支援で、子ども達対象の水辺の観察会を実施しています。水辺の生き物調べでは、その場の環境に適応した水生昆虫が見つかります。体長１ｃｍほどのカゲロウの幼虫でも、虫メガネで覗いてみると、体の各部が驚くほどの精緻さでつくられていることに感嘆せずにはおれません。レーチェル・カーソン女史の「センス・オブ・ワンダー」では、子どもたちへの一番大切な贈りものは、美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目を見はる感性を育むために、子どもと一緒に自然を探検し、発見の喜びを味わうことだ、と指摘しています。正に、子ども達の豊かな感性を育むためにも、子ども達が楽しめる水辺空間を、より多くしていく活動を発展していける年にしたいと願わずにはおれません。

【行事案内】

「川ばた会議」を開催します

～ 夏井川への想いを語り合いましょう

・日時：平成 28 年 2 月 14 日（日）午後 2 時～午後 4 時
・場所：文化センター　中会議室(1)、(2)
・内容：
〇ミニ講演　～　「夏井川漁協の活動について（仮題）」
〇ワークショップ　～　「夏井川流域の会で、これからやりたいこと」をテーマに、参加者の夢を含め自由に意見交換を。
・参加無料（事前申込不要）
・問い合わせ先：橋本（0246-22-2621）

【学習支援報告-1】

夏井川環境学習会（上下流両小学校交流会）

永井　精

夏井川の上下流河岸にある二つの小学校の交流会を提案・支援して５年目を迎えています。上流の小野町立夏井第一小学校と下流のいわき市立夏井小学校の子どもたちが、隔年・交互に相手校を訪問し環境学習の成果を発表し合って交流を深めています。

今年度は下流の５年生 14 名が上流の 5･6 年生 17 名を、平成 27 年 9 月 10 日（木）に訪ねました。折から台風が接近していて不安定な天候の一日で激しい風雨が間歇的に襲来していましたが、野外学習の時間帯には小康状態になるという幸運にも恵まれ、子どもたちは元気に学び交流し合っていました。

初めに体育館に集合し、学校長挨拶などの恒例行事を終えた後、子どもたちは自己紹介を兼ねた楽しいゲームで緊張感をほぐし合っていました。その後は互いにそれぞれ３つの教室を利用し、これまでに学習したり研究したりしてきた自然環境、地元の特産品、その他、自分たちの生活圏を取り巻く環境や出来事を、テーマごとに部屋を割り当てて発表し合っていました。子どもたちも参集した大人たちも、それぞれに興味を覚えたテーマを追って各室を自由に巡り歩き、ある人数に達したら担当の子どもたちが説明する仕組みです。毎年恒例の身近な夏井川流域の動植物生態調査・研究などに加え、例えば小野町産のニンニクを特殊な方法で蒸して作った『黒ニンニク健康食品』などについての説明兼ＰＲなどのコーナーも設置されていました。

班単位での成果発表風景

「分谷水」の現場に立ち何を感じたかな

その後は体育館での昼食会を挟み合同のバスに乗車して源流の大滝根山に向かい、谷筋の流水が突然として岩肌の小さな窪みに消えてしまう「仙台平ドリーネ」。その流水が幾つもの峰々の地下を縫い潜って遠方の「入水鍾乳洞」に至りそこから大量に地表に流出する地学的な現象などを、地元の当会会員から詳しい説明を受けて感動している様子でした。その間、林間の植生や生息動物、すぐ間近に切り立っている石灰岩の岩肌についての成り立ちなどについても同様の説明を受けながら麓まで下り、流水の一部が菅谷地区で阿武隈水系と夏井川水系に分かれる「分谷水」の現地を見学して解散予定地の磐東線・菅谷駅まで辿り着きました。途端に、満を持したような台風の大雨が降り注ぎ、間一髪の幸運なタイミングに恵まれて「交流会」を修了することができました。

これらの活動は私たちにとりましても、両校の子どもたちにとりましても有益な事業と考えておりますので、活動費の工面に向き合いながら、流域の多くの学校にもこの活動の輪を拡げていきたいと念じております。

【学習支援報告-2】

小川町高萩地区の水辺環境学習支援

阿部　孝男

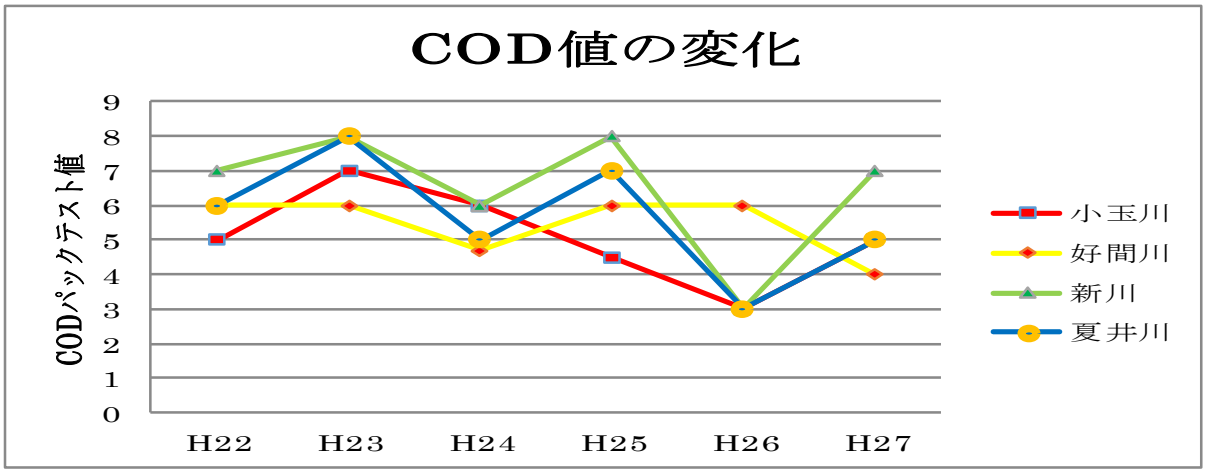
平成１９年より行っている小玉川の水質調査と水生生物調査も今年度で９目を迎え、８月２（日）に行ないました。

小玉川の調査箇所は高萩地区の１ヶ所でしたが、他の川の水質と比較するため同じ夏井川水系の支流「好間川（北目）」「新川（アリオス前）」そして「夏井川本川（鎌田）」の全部で４ヶ所の川から採水し、それぞれの水について COD パックテストやアンモニア、透視度、導電率などを計測しました。

小玉川の 9 間の水質の変化は下の表とグラフに示すように、COD 値は他の川と比較するとやや良い傾向にあることがわかります。

ＣＯＤの変化（数値が高いほど水が汚れています）

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
小玉川	7	8	7	5	7	6	4.5	3	5
好間川		5	6	6	6	4.7	6	6	4
新川		8	8	7	8	6	8	3	7
夏井川		3	7.5	6	8	5	7	3	5



調査位置図

川の水質の状態は日々（時間帯によっても）変わるため、一時的な水質を判断する水質試験の他に、川の中に長い期間棲んでいる生物の調査を行ないました。

とれた生物のほとんどは「カワゲラ」「ヒラタカゲロウ」「ナガレトビケラ」など、きれいな水にすむ指標生物の他、指標生物以外でもきれいな水にすむ生物でした。

この結果からも小玉川の水はきれいであることが判断されますが、少しきたない水に棲む生物もまだ確認され、生活排水などの影響を受けていることもわかりました。

小玉川でとれた水生生物

水質階級Ⅰ（きれいな水に棲む生き物）
コガタシマトビケラ、ヒゲナガカワトビケラ
ナガレトビケラ
カワゲラ
カゲロウ、モンカゲロウ、シロタニカワカゲロウ、ヒラタカゲロウ、チラカゲロウ、キイロカワカエロウ
水質階級Ⅱ（少しきたない水に棲む生き物）
コオニヤンマ
ヤゴ
スジエビ
その他
カエル

水は私たちが生きていく上でかけがえのない“命の水”です。川の汚れの原因は、私たちが使ったり飲んだりした水が台所やお風呂・トイレから流れていく“生活排水”がほとんどで、私達の日常生活での心がけで川はきれいになっていきます。

今後もさらに調査を継続しながら、みなさんのふるさとの川をきれいにしていく努力をしましょう。

【学習支援報告-3】

学校のすぐ前に宝庫の川、ここにかかわらないのはもったいない！

（三和小学校学習支援）

佐藤雅子

平成 27 年 9 月 8 日（火）いわき市立三和小学校の学習支援に行きました。

三和小学校のすぐ前には夏井川水系好間川が流れています。川幅は５，６ｍ、水深は 20 ㎝ぐらい、土手から一足ですぐ降りられる近づきやすい川で、その前は三和公民館です。

あいにくの小雨だったので、6 年生 17 人の児童が川辺で傘をさして見守る中、支援者(大人)5 人が大喜びで川に入り、採水、水生昆虫採りをしました。

この光景は子供と大人が反対の立場が望ましいのですが・・・。

先生方、児童に聞いたところ、目の前の川にみんな入ったことがないのだそうです。

当会のメンバーは、三和地区では子どもは当然この川で、常日頃遊んでいるものと思っていたので、もしかしたら子供たちからこの川のことを教えてもらえるとさえ期待していました。しかし子どもたちは「川がある」という感覚を今改めて持ったように私は思いました。

教室に採取したものを持ち込むと、子どもたちは初めて見る水生昆虫や魚に目を輝かせていました。支援者の江尻先生や平川さんの説明も熱心に聞く子どもたちの姿に、担任の先生、教頭先生、校長先生、そして私たちも感動してしまいました。

「川は危ないところ、入ってはいけない」と今の教育機関の指導。それに 2011/3/11 震災以来の放射性物質汚染による外出制限があったことから、人々がますます川から遠ざかっていたようです。

学習の中で、クレソンやセリなど川の中に見られる植物も実際に見てもらい、魚や水生昆虫とともにいろいろな生物が共棲していることを実感してもらいました。

もっとたくさんの子どもたちの生き生きした笑顔が見たい、そのための川の学習支援を私たちの会はいとわないつもりです。

三和小学校の先生方に私たちが小野町の夏井第一小学校といわき市の夏井小学校の交流支援の話をしたところ、大変興味を抱いてくださいました。夏井川流域の学校間交流は私たちの会の大きな事業の一つです。たくさんの子どもたちが夏井川を見つめてほしい。

そして、また「夏井川の会」のみなさんと三和小学校前の好間川に入って、「ふるさと」の歌が歌えたら最高です。こんなきれいでたのしい川にかかわらないではいられません。

【事業報告-1】

右支夏井川での 26 時間連続水質調査

阿部　孝男

２６時間水質調査も今年で８回目、昨年に引き続きいわき市を出て上流域での調査となりました。

今まで調査した河川は H20-好間川、H21-新川、H22-茨原川、H23-夏井川、H24-宮川 H25-山王田川、H26-梵天川の７河川です。

今年は我々の小野町での活動拠点でもある**「こまち交流館」**を分析会場に、１０月９日（金）～10 日（土）、採水定点を決めて日中と夜間を交代で、定点は１時間ごと、他の定点①～⑤は約 11 時間を目安に３回、現地で水位と水温を計測し、採水した水はパックテスト・導電率・透視度・臭いなどを分析し記録していきました。

調査地点

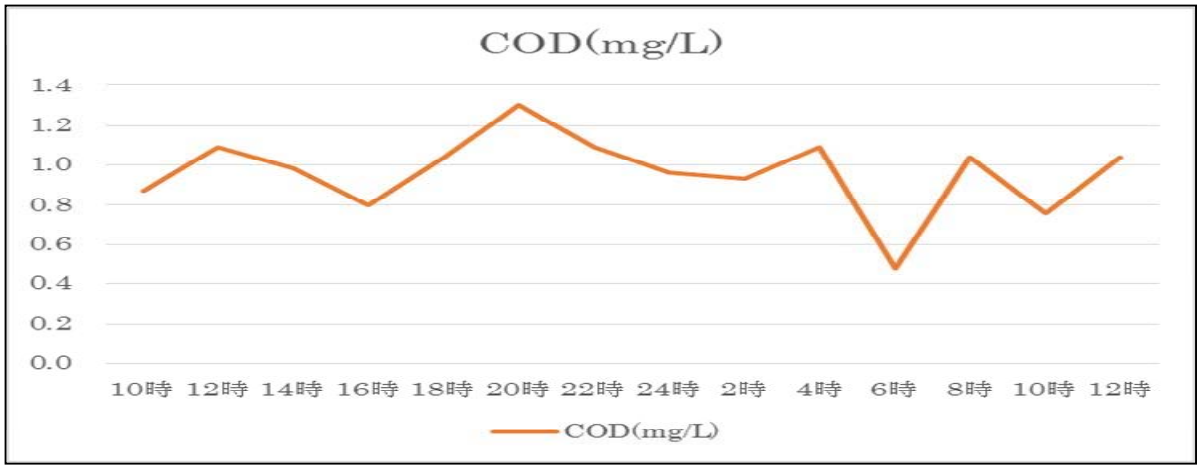
今年は会場がこまち交流館ということもあって、勝手知ったるなんとやら・・　宴会状態になったような時間帯もあり、深夜の小野町をほろ酔いで採水に行ったような気がします。

（定点は歩いて行ける場所でしたので安心してください）

ともあれ、今年も地域のみなさんの協力もあって、いつも通り訪れる明け方の睡魔もいつも通り皆さんとの歓談で吹き飛ばしてくれ、最後まで持ちこたえ無事に楽しく終えることができました。

調査は現地だけでなく、採水検体を福島高専へ持ち込み公定法での分析を行いました。

次項のグラフに示すように、全体的に数値が低い（水質が良い）ためわかりにくいかも知れませんが、定点（まちなか中心地よりやや下流）の水質の変化は、夕方から深夜にかけての炊事・洗濯・入浴等後の影響と思われる数値の上昇（悪化）、朝方にかけて水質が改善されていくものの、朝方以降は再度上昇するという、まさに水質が人々の生活様態を顕著に表すものであると言える結果でした。



福島高専での公定法によるＣＯＤ値の推移

この貴重な結果データをなんとか地域のみなさんに知ってもらい、これからの河川環境や水質について考え、できれば地域の方々にも参加してもらいたいものです。

今回の調査に参加協力頂きましたみなさん大変お疲れ様でした。

また、分析に協力頂いた福島高専の原田先生、学生のみなさん大変ありがとうございました。

採水の様子（昼夜）

水質分析の様子

水質分析の様子？
一升瓶を使った水質分析は初めてです（笑）

※過去の 26 時間水質調査記録を見たい方は事務局まで申し出ください。

【事業報告-2】

第２回夏井川かわくだり開催報告

田中博文

平成 27 年 9 月 27 日（日）いわき市平鎌田地内の夏井川親水公園にて「第２回夏井川かわくだり」を行いました。

参加者は３３名で、昨年と同様、平鎌田から平塩まで約１．８ｋｍの区間をカヌー・ゴムボートに乗り、午前・午後の２回下りました。午後からのかわくだりは競争していた組もあり、ボート引き上げまでに向かう移動時間に余裕が無かったほど３０分かからずにゴールし、子供たちのカヌーの上達にびっくりでした。参加者の中にはカヌー体験が無料でできて嬉しいという声もありました。開会式当初は小雨模様でしたが「晴れの神様」も参加していたので昼近くには雨が上がり、程よい気候となりました。子供たちはさすがに元気いっぱいで、進んで川に飛び込み川流れの体験（簡易浮き輪による救助実演）もでき、とても楽しい一日となりました。小野町の方々により BBQ セットを準備していただき、恒例の鉄板焼き（珍しく酒無し）を堪能できました。

当日、鎌田地区の河川敷き草刈りと同日になり、事前に区長さんには周知していましたが、少々迷惑だったと思います。来年はもう少し早めに第３回を開催しますので、また宜しくお願いします。参加してくれた方々、準備・手伝いしてくれた役員の方々、大変お疲れ様でした。有難うございました。

小雨の中の開会式

とても上手です

ゴール地点より

恒例の BBQ(ﾊﾞｰﾍﾞｷｭｰ)

笹舟をつくろう

笹舟競争

川流れの体験

みんなで

最後にゴミ拾い

【全国交流会参加報告】

第 15 回全国河川愛護団体交流会・新潟大会

橋本　孝一

去る 10 月 24 日（土）と 25 日（日）の２日間にわたって、標記の大会が開催されました。福島県からは、当会会員４名の他、鮫川流域のメンバーを含め総勢 12 名で参加しました。新潟県での開催は今回で４回目になりました。

◆初日の交流会（新潟市市民活動支援センター）では、大熊孝氏（NPO 法人新潟水辺の会顧問）から、「越後平野の特徴と新潟の水辺のまちづくり ～ 萬代橋・通船川・鳥屋野潟を中心に」と題しての基調講演がありました。萬代橋は、新潟市にとっては、重要な位置を占めていること。橋の防護柵の高さを子供が水辺を見れる高さに低く抑える活動等、貴重なお話を紹介頂きました。

続く、水辺活動交流会では、５団体から事例紹介（①村上宗隆氏「木曽川下流域の活動」、②宮本高行氏「水辺の癒し効果」、③大越則恵氏「福島・西郷暮らしの会の活動」、④佐藤雅子氏「福島夏井川流域の会の活動」、⑤高橋誠一氏「早川堀通りの活動」）がありました。　交流会後は、会場を料亭「かき正」に移しての懇親会。地元の芸妓さん達のもてなしが印象的でした。

◆翌日は、バスにて「朱鷺メッセ」に。展望台からの眺めは圧巻でした。信濃川ウオーターシャトルでの川旅、歴史博物館にて学芸員の説明に聞き入りながら新潟市の川との係わりの歴史に往時を偲ぶひと時を過ごしました。その後の「早川堀通り散策」では、「新潟水辺の会の方達の長年の努力がやっと実を結んだ水路なのだ」との思いが胸に込み上げてくるのを禁じ得ませんでした。

◆今回の交流会では、幹事を務めて下さった NPO 法人掘割再生まちづくり新潟の川上伸一さん始め、地元新潟の方々には、大変お世話になりました。私も、今回で４回目の参加になりますが、一度壊された掘割を復活させるのは、正直言って至難の技と思っていただけに、強い地元愛に裏打ちされた粘り強い活動の成果に万感の声援を送りたいと思いながら帰途につきました。

佐藤雅子さんの発表

復活なった早川堀通り

ウオーターシャトルで信濃川遊覧

参加者揃ってパチリ

【関連団体事業への参加報告-1】

小玉ダム湖周辺清掃活動参加報告

田中　博文

平成 27 年 10 月 31 日（土）「夏井川を守る会」主催の小玉ダム湖周辺清掃活動に参加しました。毎年今頃に実施している清掃活動で、会は夏井川漁協の方々が中心となっています。

当会からは３名の参加で、昨年よりはゴミが少なかったですが、相変わらずペットボトル、缶、コンビニ弁当ゴミがありました。他にはラジカセ、タイヤ、湖岸近くでは流木が多くありました。漁協の方の話しでは、小玉ダムに数年前からワカサギを放流しているが、ダム湖に大繁殖している外来生物のウチダザリガニの駆除に努めたり、他の場所ではアユやヤマメ、ウナギなど数種類の魚種の育成・放流活動を行っているとの事で、規制するだけではない様々な活動を行っていることが理解でき、一度お招きして詳しい話しを聞きたいと思いました。

当日は BBQ をしている方々、湖畔公園のアスレチックで遊ぶ親子、ワカサギ釣りをしている方々もおりましたが、知名度が低いからか全体的にとても静かでした。サイクリング道やキャンプ場、水飲み、トイレも整備されており自然散策などに絶好の場所ですので、是非一度訪れてみて下さい。ちなみに清掃活動は毎年継続されています。

参加した方々

こんな感じでゴミ拾い

トラック一杯のゴミ

【関連団体事業への参加報告-2】

深いみどりの防潮堤を念じて

佐藤　忠

平成 27 年 11 月 28 日（土）、夏井地区海岸で、いわき建設事務所主催の植樹祭に参加しました。東日本大震災で大きな津波の被害を受けた海岸に、平成 25 年 10 月に全国初、震災ガレキを使用した夏井海岸堤防（高さ 7.2m、延長 920m）が完成し、その堤防陸側への植林です。

いわき建設事務所のみなさんの熱意の表れです。福島県副知事、岩城法相、地元区長等の挨拶の後、藤間中学校の生徒と一緒に、参加者約 200 名が、クロマツ・クヌギ・コナラの苗木約 2,000 本を植樹しました。当夏井川流域ネットワーク会員、4 才・5 才の女児を含む家族は、「大きく育ってネ」と優しくクロマツの苗木を丁寧に植樹していました。

****

＜書籍紹介＞

藤岡換太郎著「川はどうしてできるのか　～　地形のミステリーツアーへようこそ」（ブルーバックス、860 円）。

著者は、地球科学を専門とする立場から川が出来る由来を謎解きの感覚で紹介してくれます。

国内だけでなく世界的な規模で触れており、楽しみながら一読できる本です。

【事業報告-3】

新川ひょうたん島の清掃

田中　博文

毎月恒例の夏井川河口親水公園の草刈りは冬季に入り草も少なくなったため、平成２７年１１月７日（土）と翌月１２月５日（土）いわき芸術文化交流館アリオス裏の新川河川敷内にあるひょうたん島の清掃を行いました。

震災前は定期的に清掃を行っていたとの事ですが、最近は土砂が厚く堆積しその存在すら知られていない状況でした。そのため、１１／７ではひょうたん島の縁を掘削して島全貌を出現させ、１２／５では島の手前の水みちを開通させました。しかし、島中央部は土砂が堆積したままなので、今後も少しずつ手入れしていきたいと思います。

堤防にはベンチが整備されて休憩する人が多く、せっかくの親水施設ですので、皆さんに利用していただきたいです。

施工前（11／7）

作業中（11／7）

施工後（12／5）

作業中（12／5）

【事業報告-4】

秋の夏井川沿いウォーキング

木田　都城子

11 月 21 日、「秋の夏井川沿いウォーキング」が開催されました。

2 回目となる今回は事前に FM いわきといわき民報で告知を行いました。その結果、一般の参加が増え、総勢 22 名（昨年は 13 名）です。

昨年同様、いわき駅発 8 時 41 分の JR 磐越東線を利用し、川前駅に 9 時 10 分に到着。「夏井川をきれいにしてみま専科」の中山さんご夫妻が準備して下さった甘酒で心も体もあたためて、出発となりました。

古民家「永山邸」で豪商の歴史を感じる建物や水を利用した庭園を散策し、夏井川渓谷、紅葉観察へと足を進めていきます。

今年は昨年より 1 週間開催が遅かったこと、さらに直前に大風が吹いた影響などもあり、夏井川渓谷沿いの木々は落葉が進んでおり、私が担当する紅葉観察に最高の状態とはいえませんでした。

さいわい落葉した葉がきれいな状態で散り敷いていたので、それを利用して葉の形や手触りなどを楽しんでいただいたり、葉っぱ探しをしたりしました。また木立や樹皮の違いなど落葉後だからできた観察もあります。同じ場所ですが、昨年とは違った視点から観察会を行うことができました。

昼食には中山さんご夫妻から豚汁をふるまっていただき、無事に江田駅に到着。JR 江田信号所発 14 時 32 分の列車まで、夏井川の水と空気に触れながらすごしました。

列車を待つ間、キャンプ場横の夏井川周辺で観察などをしていると、背戸峨廊の駐車場に大型観光バスが数台到着しました。背戸峨廊へ入るには軽装なので、夏井川渓谷が目的のバスツアーだと思われますが、ウォーキングで歩いた川前までの道は大型バスの通行は困難です。だからといって、ここで引き返すのは不本意な話です。どうするのか見ているとツアーの方々が私たちの方へ歩いてきます。案内をする人もなく、黙々とやってきて、川岸を降り、川原を横切り、川の近くまできて、各々写真撮影を行うと、再びバスの方へ戻っていきます。ツアーの方々が乗り込んだバスは再び来た方向、川下側へ走り去っていきました。篭場の滝も発電所も見ることなく帰って行った方々。主に首都圏からいわきを訪れたとのことでしたが、この夏井川をみて、夏井川渓谷散策をしたことになっているのかもしれません。夏井川の美しい自然が誤解されていないことを願いました。ところが後日、調べたところキャンプ場の名が「夏井川渓谷キャンプ場」でした！誤解しているのは私たち住民だったようです。

今年も差し入れをいただいた中山さんご夫妻にこの場をお借りして感謝と御礼を申し上げます。また一般参加して下さった方々、参加した会員の皆さん、おつかれさまでした。

樹木と落ち葉の解説（付近にはブナの木も）

遭難碑（昭和１０年列車転覆）の解説

【寄稿記事】

夏井川河口閉塞の要因はいずこに

世話人　吉田　継男

夏井川河口が土砂で堰き止められる現象は、平成8年9月頃より始まり、今日迄約20年の経過がありますが、様々な対処はなされたものの何ら改善の徴候を示されることはありませんでした。これに対して福島県は、平成20年3月頃、河口部で土砂が堆積している状況を改善するため海と河川の土砂の移動に関する調査対象の一つに夏井川を指定して、上流部からの土砂の流出状況や潮流の変化による海砂の移動等を総体的に検討をして参りましたが、今だに明確な原因究明迄には至っていない状況下にあります。

こうした実情に鑑み、平成27年2月に県議会定例会におきまして、いわき地区選出の県議会議員より、夏井川及び横川の治水対策についての質問がなされたのに対し、県土木部長は、河口閉塞対策工事を早期に完成させると共に、横川への水門設置等も含め効果的な対策について検討して参る所存である旨の答弁をなされましたが、今のところ具体的な対策のほどは不明なままであります。

こうした中で生じる疑問は、なぜ昔は閉塞現象が発生しなかったのかと云うことです。河口から1,500m上流の旧県農業試験場周辺の堤防用地等が平成3年頃に買収されたことにより河口から3km上流にかかる常磐バイパスの夏井川橋から磐城舞子橋の方面を望むと右岸・左岸堤防が、ほぼ平行して一直線上に磐城舞子橋まで見渡すことが出来ます。云うまでもなく河川水は、降雨による増水時には、川の中心部分が盛り上がった状態で直線的に流下していきますが、その破壊力を有する流勢は極めて凄まじいものであります。しかし乍ら、

流下していく強力なエネルギーを吸収すると考えられる様々な障害物が存在している実態が散見されるのであります。

一つは、河口から左岸上流1,500mと右岸上流1,000m付近の２箇所に背後にかつて存在した農地流失を止める目的で低い護岸が設置されていますが、河川用地買収によって農地を洪水から守る必要性がないにも拘わらず未だに流路を妨げ続けております。

二つは、前述の護岸の存在に伴って、その背後地に樹木・雑草、浅瀬には葦が繁茂しており、加えて土砂が堆積して流速を低下させて河口砂の押し出すパワーをダウンさせております。

三つは、河川用地の買収に伴い農地が無くなり農民の管理機会が減少して荒廃が進行する現象を呈していることであります。

四つは、河口直前区域の河床が海水面との落差が開かない工夫をする方法の採用です。以前に流れを良くするため河床を掘削したとの事実もありますが、これは逆効果の原因ともとれる「よどみ」をつくり、流速を削ぐものとも考えられます。

いずれにせよ、夏井川が福島県浜通りの二級河川をリードする立場から正常な姿で汽水域の風情を悠久に保持しつつ、人々の生活・文化の母なる川として、身近な存在であることを希求して止まないものであります。

～～～　会員の皆様からの御寄稿をお待ちしております。～～～

会報　第４０号　2016.1.1
発行：夏井川流域住民による川づくり連絡会
事務局：〒970-8017　いわき市石森２丁目9-17　永井　精
Tel.0246-88-7338

当会ブログもご覧くださいhttp://blog.natsuigawa-karyu.net/